

# 前森山集団農場の成り立ちと経過



株式会社前森山集団農場  
(八幡平市)  
代表取締役

寺地 輝美

東北道・松尾八幡平インターチェンジから安比高原スキー場へ向かう安比レインボーラのインのほどに広大な牧草地が見えてきます。前森山の東山麓で酪農を展開している株式会社前森山集団農場です。

## 農場の成り立ち

前森山集団農場の成り立ちは、昭和29年に中国(旧満州)から帰国した全国各地の出身者からなる開拓団、開拓義勇隊の先代たちが現在地に入植したことに始まります。

当時は厳しい環境の下、ブナ、カラマツなどの原生林を開墾し、ヒエ、大豆、馬鈴薯を植え付け、入植3年目の昭和31年に乳牛を導入したのが酪農の始まりです。入植前の調査で標高、地形、気象などの条件から酪農を生涯に決めたようです。

ブルドーザーによる開墾を国の事業として取り入れ、厳しい生活環境の中、共同経営に

より営農資金を牛舎建設、家畜導入等に活用し、経営の安定に努力するなど共同の力が発揮されました。

以来、酪農業を主として規模拡大を図り、昭和53年に農事組合法人に法人化、平成28年6月に株式会社へ組織変更、同年、畜産クラスター事業による牛舎などの施設を整備し規模を拡大、平成29年3月には、いわぎん事業創造キャピタル株式会社の農業ファンドによる投資を受け、現在に至っています。

私は乳牛が導入された同じ年の昭和31年に生まれ、農業高校卒業と同時に後継者として農場に就職し以来45年酪農に従事して参りました。

そして、酪農情勢が厳しく農場の経営が悪化した平成20年には、農場長に就任しました。当時は経営に携わっておらず、農場から外部へ出たこともなく、経験の少ない中での経営再建でしたが、乳牛、酪農については現場で

の経験から自信があり、経営に置き換えて学んでいきました。途中、東日本大震災など経営に影響がありました。多くの方々に支えられた10年でした。

## 現在の経営概要

現在の経営は役員5名(外部監事1名)、雇用職員9名(常勤7名、臨時2名)、経営規模は耕地面積170ha(ヘクタール)(草地130ha、飼料畑40ha)、飼養頭数は経産牛290頭、育成牛300頭を飼育、2年後には経産牛350頭、育成牛330頭まで増頭する計画です。

施設は、仕切り柵で乳牛を一頭ずつ繋がず舎内を自由に行動できるフリーストール方式牛舎、同時に24頭搾乳できる搾乳専用舎(パーラー搾乳舎)などの他、哺乳ロボットによる哺育舎などが整備されています。草地部門では170haの圃場を管理し、粗飼料の収穫量

アップと作業の効率化を目指して機械の導入を進め、大型トラクターによる草地管理、収穫作業などを行っています。

経営の特徴は、メガファーム（大規模農場）でありながら牧草、飼料用トウモロコシなどを生産する自給粗飼料基盤を有し、自家育成による後継雌牛を生産するなど、生産原価管理による低コスト化が図られており、為替相場の変動などによる輸入飼料の高騰、後継雌牛不足による市場初妊牛価格の高値などの外的な影響を受けない強みがあります。

## 現在の取り組み..目指すもの

I ICT（情報通信技術）等の新技術の導入・性別別精液の活用

乳牛の飼養管理には牛群システム管理プログラムが導入されており、1頭ごとの搾乳量、繁殖、疾病などの管理がされています。また、傾斜地圃場に対応するためのGPSがトラクターに装着されており、1圃場3〜10haの管理作業などに効率性を発揮しています。

繁殖においては、後継雌牛生産に性別別精液（メス産み分け精液）を活用しており、自家育成の他に後継雌牛の販売を行っており、供給元としての役割を担っています。

## II 農業機関との連携

平成27年度から県畜産研究所と連携し、草地の簡易更新や、飼料用トウモロコシ生産で収量減の要因の一つとなる強害雑草アレチウリの防除について、不耕起播種技術と薬剤処

理を組み合わせた技術導入を図り増収に結びつけています。また、当地はツキノワグマによる被害被害が頻発しており、被害を防ぐ対策として八幡平農業改良普及センターと連携し、支柱とワイヤーの強度を高めた恒久電気柵を設置し、侵入被害の軽減に結びつけています。

## III 情報交流

岩手県の酪農家が自主運営している岩手県フリーストール・フリーバーン酪農研究会に参加し、乳用牛向け給与飼料の低コスト化や蹄病対策などフリーストール飼養に必要な技術研鑽に努めているほか、先進地視察、酪農技術の研修など、外に向かった活動も大切に

しています。

教育ファームの活動では、盛岡中央高校のフィールドワークを受け入れ、農場で実施している草地型酪農の最新技術の現場を見てもらい、岩手県の基幹産業である酪農についての学びの場を提供しています。

## IV 支援体制

農業投資ファンドによる提携を機会に、いわぎん事業創造キャピタルによる経営検討委員会が毎月開催され、月次試算表作成等による財務管理や資金計画など、経営の評価・分析が行われているほか、酪農経営コンサルを行う新田家畜管理サービスによる飼養管理、繁殖診断、成績分析などの指導も行われています。

## 最後に

私が生まれた年から農場の歴史の中を一緒に駆けてきた乳牛。多くの人との出会いも牛や酪農を介してのものであり、牛から学んだことが今の私の原点だと思っています。

これからも農場の牧草地で育まれた乳牛から生産された安全・安心・新鮮な国産牛乳を消費者の皆さんへ届け、恵まれた安比、八幡平の自然環境や景観を活かした酪農経営を継続することが農場の存在価値だと思っています。

今年で農場も入植65年目を迎え、更なる次世代への事業継承の時期にきています。共同経営の難しさも痛感しており、株式会社化を契機に成熟した組織に変わってほしいと願っています。



岩手山を背にした同社農場